

第2回さかなの日推進委員会 議事要旨

日時：令和4年7月14日（木）10:00～11:00

場所：リモート開催

- ・議題：（１）「さかなの日」の制定について
- （２）「さかなの日」の制定に向けた意見交換
コンセプト・開催時期・ロゴ案等について
- （３）その他

○議題（１）について、事務局から説明後、（２）意見交換での出席委員の主な意見は以下のとおり。

〈コンセプト・開催時期・ロゴ案等について〉

- ・ コンセプト案については、近年 SDGs と言われても色々ある。実態として何をやればよいかわからないことが多いので、「さかな×サステナ」というテーマに沿って取り組むのはよいこと。
 - ・ 開催時期の毎月３～７日で期間に幅があることは問題ない。
 - ・ 11月３～７日（いいさかなの日）はさかなの日のスタートに良い機会だと思う。魚は秋から冬にかけて焼き物から、鍋物、煮物に代わり、旬物の多い時期。また年末年始の御馳走感もありよい。
 - ・ 開催期間は覚えやすくよい。ただ、様々な企業で取り組むことになるため、各月毎に統一的なテーマがあれば、足並みがそろうと考えられる。
 - ・ 毎月３～７日が良い。この日のご飯のメニューは魚にしようとなる。ただ、家庭料理だと生食か焼き物が多くなるので、それ以外のメニューについては、外食や総菜を活用してもらうのが良い。
 - ・ キャッチフレーズは、わかりやすさが重要で、最近では10字以内が伝わりやすいと言われる。インスタグラムやtiktokのように、絵で理解できるということが重要。
- ３～７日でさかなとわかるのはよい。また回数が多い方がよいので、毎月の開催案には賛成である。また、飽きというものが来ないように、特に盛り上がる期間を設けるべき。

※ロゴ関係は、商標登録の関係上、省略。

〈その他〉

- ・ 「さかなの日」を制定することで、魚食普及が進み、結果として日本の魚の消費量が増えることを期待している。可能であれば、魚の消費量をどこまで戻したいかという数値目標があることが望ましい。
- ・ 価格や魚種を絞って設定すると、さかなの日の魚食普及の取組は長く続かないと考えられる。取組には他の賛同企業と魚を使用した食卓でのメニューの提案を考えている。また、売り場は水産だけでなく、加工食品・調味料等もあるので、様々な売り場と連動させて魚の消費拡大に努めたい。
- ・ まだまだ外食は厳しいため、外に出て食べるという流れも作れるとよい。外で食べたものを家庭で作ろうとする流れは重要。
- ・ 主婦の方は、日々の献立をどうするのか考えている。魚食が減っている日本において、毎日魚を食べてもらうことが理想である。